

横浜音祭り 2022 クロージング公演 反田恭平& Japan National Orchestra

公演レポート①

11月6日に横浜みなとみらいホールで開催された「横浜音祭り2022 クロージング公演 反田恭平 & Japan National Orchestra」を鑑賞させていただきました。

私がみなとみらいホールを訪れた時、幅広い世代のお客様がいらしていたのが印象的でした。実際、Japan National Orchestra(以下、JNO)の皆さんも若手のソリストが集まってできているので、クラシックが若い世代にも浸透してきていることを実感しました。

今回の公演の第1部では反田さんが指揮を担当し、JNOが演奏する形でした。実は、モーツァルトやベートーヴェンの1曲をフルサイズで聴いた経験があまり多くないので、メロディーの移り変わりがとても新しく感じました。この部では、ヴァイオリン、ヴィオラ、コントラバスが立って演奏していて、私はこの光景を初めて見たので驚きました。

第2部はJNOが反田さん担当のピアノを囲むような構図での演奏。その時、反田さんが余裕のある弾き振りしていて衝撃でした。管楽器や弦楽器の中でも反田さんのピアノの存在感がどの曲も消えず、主張が強すぎない 絶妙な感じが素晴らしかったです。

最後にアンコールで再び登場した反田さんはショパンの英雄ポロネーズを演奏してくださりました。ほんの少しピアノ経験がある私は世界的なアーティストのソロパフォーマンスを目の当たりにして、口が開きっぱなしでした。

終始驚きの連続で、あっという間に公演終了。中学生プロデューサーとして活動した横浜音祭り2022も終わりを迎えました。横浜全体が音楽に溢れ、さまざまな世代がさまざまな形で音楽に触れ、新たな発見ができるとても素敵な企画に参加することができて幸せです。3年後の音祭りでもみんなの音楽が響き渡る横浜であってほしいなと思います。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

私がこのコンサートの中で一番印象に残った曲は、ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第 4 番 ト長調 作品 58 です。

なぜなら、反田さんが指揮をしつつ、ピアノを弾いていたからです。反田さんは、座ったまま指揮をして、ピアノを弾くときになったら、指揮をしていた手をそのまま降ろして、ピアノを弾いており、私だったら絶対に一度音楽を止めないと指揮からピアノに移ることはできないので、すごいと思いました。

また、アンコールで弾いていたショパンの英雄ポロネーズもとても感動しました。

コンサート中は、オーケストラとのアンサンブルだったので、ソロは無いのかな、と思っていましたが、アンコールで貴重な反田さんのソロを聞くことができ、涙が出るほど嬉しかったです。音が透き通っていて、美しい音色で、何度でも聴きたいと思いました。

私もピアノを習っているので、反田さんの透き通った音色に少しでも近づけるように精一杯練習を頑張りたいと思います。